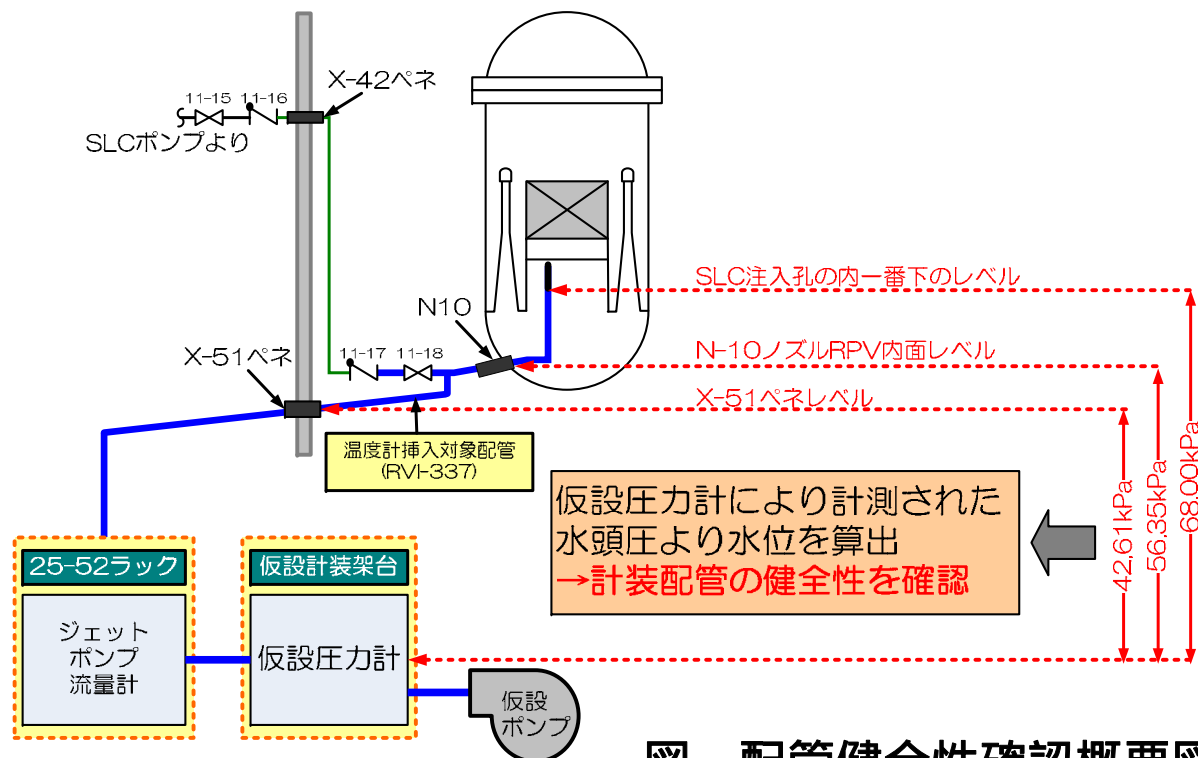


福島第一原子力発電所2号機 原子炉压力容器（RPV）底部温度代替温度計設置のためのほう酸水注入系（SLC）差圧検出配管健全性確認結果

< 参考資料 >
平成24年7月13日
東京電力株式会社

内容

- RPV代替温度計の設置にあたり、温度計を挿入する配管が健全であるかを確認するため、仮設ポンプより水張りを行った。（7月12日実施）
- 水張り開始後、約15リットルまで水張りを実施し、ポンプの圧力計が3.3MPaまで上昇したが、水が注入できない状況となった。
- その後、148kPaまで低下したが、圧力が落ち着くまで時間がかかっており、引き続き圧力を確認することとしていたが、本日、仮設圧力計の圧力を確認したところ、約100kPaであり、昨日より低下している。
- 今回の結果を踏まえ、SLC差圧検出配管のいずれかの箇所では閉塞している可能性が考えられるが、今後詳細に評価を行っていくとともに、工事の施工方法についても検討を行っていく。



図．配管健全性確認概要図

[参考：昨日からの作業実績]

7月12日(木)

10:20 水張り前の圧力確認 (仮設圧力計 : 64kPa)

10:35 水張り開始

約15 L 水張り (計装配管容量 : 約33 L) した段階で、仮設ポンプに取り付けてある
圧力計が3.3MPaまで上昇し、その後注入できない状況

11:05 水張り停止 (水張り停止後徐々に仮設ポンプの圧力は低下)
仮設ポンプに取り付けられている圧力計が0.2MPaまで下降

14:58 圧力確認 (仮設圧力計 : 148kPa (下降継続中))

7月13日(金)

10:00頃 圧力確認 (仮設圧力計 : 約100kPa (仮設圧力計))